【研究ノート】

地域のスポーツ文化に資するオリンピアンによる講演会と実技指導に関する報告

久保　賢志・寺本　明日香・西山　哲郎

抄録

本稿は、スポーツ文化による地域振興とオリンピックのレガシー形成とトップアスリートのセカンドキャリアを後押しすることを目的とした、中学生対象の講演会と実技指導イベントに関する報告である。東京2020オリンピック・パラリンピック大会の前にも同様のイベントを開催したが、今回は大会後のアフターフォローとして実施した。

具体的には、本イベントは子ども達とオリンピアンが交流し、前者がオリンピックとスポーツ文化に興味を持ち、日常の運動習慣形成を推進することを目標としていた。それはまた、中学校教員に上達の方法論を指導し、指導技術を向上してもらうことも目標としていた。

結果としてそのイベントは、①子ども達に感動を与え、②子ども達とオリンピアンが体を動かしながら交流し、③子ども達のスポーツに対する学習意欲を向上させることができた。加えて、④その学校のある地域で東京2020オリンピック・パラリンピックの終了後も継続したオリパラへの関心を高め、⑤中学校教員に指導技術を提供することができた。

東京2020大会が終わり、その後のレガシーを考えていく中で、本報告が地方自治体でスポーツ文化を振興する一助となることを期待したい。

キーワード：地域連携、スポーツ教室、オリンピック、トップアスリート

1. 研究の目的

本研究では、久保ほか（2021）で報告した2019年の体操教室、2022年3月に東海地方のM市[1)]で小学校、中学校の授業の一環として実施した「オリンピアン 竹澤健介」ふれあい陸上教室に続き、2022年9月に同地方の同市の中学校で開催した「オリンピアン　寺本明日香」ふれあい体操講演会について報告を行う。この一連の研究における目的について、久保ほか（2021）では次のように述べた。

> 2010年8月、文部科学省は「スポーツ立国戦略」を公表し、今後の日本のスポーツ政策の方向性を示した。そこでは、実施すべき重点戦略として、以下の5つの目標が掲げられていた（文部科学省2010）。
>
> (1) ライフステージに応じたスポーツ機会の創造
> (2) 世界で競い合うトップアスリートの育成・強化
> (3) スポーツ界の連携・協働による「好循環」の創出
> (4) スポーツ界における透明性や公平・公正性の向上
> (5) 社会全体でスポーツを支える基盤の整備

本研究では、この政策の方向性のうち（1）と（3）と（5）に注目し、スポーツ文化による地域振興とトップアスリートのセカンドキャリアを後押しするような活動として、中学生を対象とした講演会と実技指導を組み合わせたハイブリッド型のスポーツ教室（以下、ふれあい体操講演会）を開催した。

2020東京オリンピック・パラリンピックの開催に伴い、国内でオリンピック・パラリンピックと関連した教育実践や支援事業の開催など、様々な形でオリパラへのアプローチがなされた。その中でも、全国の地方公共団体が大会参加国・地域との相互交流

を図るとともに、地域の活性化等の推進を目的とした「ホストタウン」の取り組みは、オリンピック・パラリンピックの地元開催を一過性のものとせず、ポジティブなレガシーを積み上げていくうえで、重要な位置づけにあると考えられる。そうした活動は、同時にトップアスリートのセカンドキャリア形成を支援することにもつながるだろう。

子どもを対象としたスポーツ教室の開催は、先行研究（奥谷ほか2004）によると、開催当日に行った運動が効果をもたらすだけではなく、子どもの体力低下が嘆かれているなか、日常的な身体活動を活性化することがデータで示されている。特に、トップアスリートを指導者としてスポーツ教室を開催した場合は、学校の教員などが指導する場合より、参加者との双方向なコミュニケーションが活性化し、技能に関するフィードバックが増え、参加者の満足度が高まることが明らかとなっている（田原ほか2016）。

上記を踏まえ、2019年には体操のオリンピアンである沖口誠氏と協力して小中学生を対象とした体操教室（久保ほか2021）、2022年には陸上競技のオリンピアンである竹澤健介氏と協力して陸上教室を開催した。そして、東京2020大会後の2022年9月に、2019年と同じ東海地方のM市の中学校で「オリンピアン　寺本明日香」ふれあい体操講演会を開催した[2)]。その第一の目的は、オリンピアンと子ども達が全校生徒を対象とした特別授業の中で講演会と実技指導を通じて交流し、オリンピック・パラリンピックを中心にスポーツへの興味を持ち、日常の運動習慣形成を推進することにある。さらに、子どもだけではなく、中学校教員に指導の基本的な方法論をレクチャーして、日常の指導に役立つ指導方法の提供を第二の目的とした。

以上のことから、本イベントはオリンピアンの経験談を聞くことで一流の競技者の心構えを学ぶ場となる講演型と、卓越した競技力と指導技術を持つオリンピアンの指導ノウハウや、技術（見本）にふれて感動を味わうことができる体験型を組み合わせたハイブリッド型のふれあい体操講演会を中学校の特別授業として展開することとした。

2. 活動の背景

M市では、総合計画等に基づき太平洋沿岸部の活性化に取り組み、ビーチスポーツを活かした地域活性化を行ってきた。特にサーフィンが盛んで、サーフポイントが多数点在し、温暖な気候のため一年中、愛好者が波に乗ることができる。

同市は、2019年に東京2020オリンピック・パラリンピックのサーフィン競技における海外二カ国のホストタウンとして登録された。この登録を活かすために、両国とのスポーツや文化を通じた交流等を通じ地域のグローバル化及び活性化を推進する「ホストタウン交流事業」にも取り組んだ。その一環として、同地を事前合宿の場に選んだサーフィン競技のアメリカ代表チームとの交流事業が企画されたが、あいにく2020年から開催年までコロナ感染症の拡大が危惧される状況が続いていたため、オリンピック開幕直前に何度かオンラインを中心にM市の住民が海外のオリンピアンと交流が行われた。

東京2020オリンピック・パラリンピック終了後も、ホストタウン交流事業は継続されているが、コロナ感染症問題が鎮静化してきたことを追い風に、オンラインではなく、実際に「オリンピアン」と住人がふれあうことのできるスポーツ推進の取り組みをM市が検討していた。そして2022年6月、著者の一人（久保）にイベントの講師を務めるオリンピアンの人選や、取り入れる種目の選定に関する相談が寄せられた。

M市からの要望では、①次世代の子ども達に感動を与えられるようなイベント、②聞くだけの講演ではなく、子ども達と体を動かしながらの交流、③スポーツに対する学習意欲の向上、④東京2020オリンピック・パラリンピックの終了後も継続したオリパラへの関心、⑤M市の中学校教員に指導技術を提供、といったように、子ども達の成長と中学校教員への指導技術提供に寄与するイベントが求められていた。

これまでに、同市と著者の二人（久保、西山）は、二度のスポーツ教室を開催していることから、今回も同様の趣旨で講演型と体験型を組み合わせたオリンピアンによる「ふれあい体操講演会」を実施することにした。講師には、ロンドンオリンピック、リオデジャネイロオリンピック体操競技女子日本代表

の寺本明日香を招聘。企画内容やM市が求める5つの目的を説明したうえで、寺本に講師を依頼した。寺本は、同市のスポーツ推進に向けた情熱や取り組みに共感。また本件が社会的意義を持ち、子ども達の学習意欲を高めるうえで貴重な機会になると考え参加を了承した。

開催決定後、M市は、オリンピアンとふれあう対象者（学校）の選定や、開催場所などの環境整備、予算の確保を行い、バックアップ体制を整えた[3)]。久保は、本件のコーディネーター兼講演会のファシリテーターとして参画し、西山からのアドバイスを踏まえて、寺本と開催日程やプログラムの内容を調整した。当日の運営は寺本を中心に行ったが、久保も至学館大学で器械運動の授業や体操競技部の指導をしていることから講師サポート役として現場指導にも携わった。そして、2022年9月に「オリンピアン 寺本明日香　ふれあい体操講演会」を開催した。

3.「ふれあい体操講演会」の概要

日　　程：2022年9月5日（月）
場　　所：M市立M中学校（体育館）
時　　間：13時45分～14時45分
　　中学3年生のみ対面開催
　　※中学1、2年生はオンライン参加
活動内容：講演会と実技指導を組み合わせた「ふれあい体操講演会」（全学年対象）
講　　師：寺本明日香
　　至学館大学健康科学研究所研究員。2012年ロンドンオリンピック、2016年リオデジャネイロオリンピック女子体操競技日本代表。ロンドンオリンピックの団体では、ただ一人全4種目に出場し8位入賞。個人では11位と奮闘。リオデジャネイロオリンピックでは主将に任命され団体4位、個人8位といずれも入賞を収めた。世界選手権にも6度の出場を果たし、10年間日本のトップを走り続けた。2022年9月より至学館大学体操競技部女子監督を務めている。
コーディネーター兼ファシリテーター：久保賢志
　　至学館大学健康科学部健康スポーツ科学科助教。オリンピック教育の効果や、スポーツ組織内のコンフリクトに関する研究、地域スポーツ推進の実践研究などに取り組んでいる。同校の体操競技部部長も務めている。2020年3月関西大学大学院人間健康研究科人間健康専攻博士課程後期課程修了、博士（健康学）。

4.「ふれあい体操講演会」の実施状況

4.1　参加者

今回の「オリンピアン 寺本明日香　ふれあい体操講演会」は、M市立M中学校の全校生徒を対象とし、参加者は対面とオンライン合わせて約520名となった。対面は3年生のみとし、1、2年生はオンライン上での受講となった。また、同中学校の教頭、教務主任、教員約20名（オンラインも含むため人数は推定）、M市教育長、M市役所の2名も本イベントにオブザーバー参加していた。

4.2　スケジュール

ふれあい体操講演会の全体スケジュールについては、表1に示した。短時間で講演会と体操体験会を実施することから、生徒や教員に理解してもらいやすいよう、簡易なプログラム内容を設定した。

表1　「ふれあい体操講演会」スケジュール

◆中学1、2、3年生　13時45分～14時45分
▽スケジュール ①講師紹介 ②寺本講師による講演会 ③寺本講師による体操体験会 ④生徒からの質疑応答 ⑤記念撮影

4.3　スケジュール詳細

スケジュールの詳細については、表2に示した。

今回は特別授業の中で実施したため、1時間で講演と実技指導を行った。スケジュールが過密していることに懸念はあったが、ファシリテーターを入れたことで円滑に進めることができた。

表2　スケジュール詳細

M市立M中学校　全校生徒を対象にしたふれあい体操講演会のプログラム
日　時：2022年9月5日（月）、13時45分～14時45分
場　所：M市立M中学校体育館

時間		プログラム内容	必要備品･備考
13：45	13：50	自己紹介､挨拶､経歴紹介	▽講演会 机、イス、マイク
13：50	14：00	目標を持つことの大切さ	
14：00	14：10	生き方のヒント	
14：10	14：20	苦難を乗り越えてきたこと	
14：20	14：23	体操競技のルールを知ろう（導入）	▽体操体験会 平均台、マット、マイク
14：23	14：28	体操競技に必要な美しい姿勢や動作を知ろう	
14：28	14：38	動きの採点、評価	
14：38	14：41	デモンストレーション	
14：41	14：45	記念撮影	

4.4　プログラム内容と達成目標

プログラム内容とその達成目標については、下記の通りであった。

①講演会

Ⅰ．目標を持つことの大切さ

体操競技を始めたきっかけや、目標をどのように設定してきたかなど経験談を披露した。その中で、様々なことにチャレンジして興味と持つことが目標を見つけるステップになると述べ、そのうえで大小の目標を持つことの大切さを説き学習させた。

Ⅱ．生き方のヒント

生きていくうえで大切にしていることは、周囲への感謝だと述べ「ありがとう」の反対は「当たり前」と表現し、日常生活やスポーツ活動をするにおいても周囲への感謝を忘れないよう伝え、学びを与えた。

Ⅲ．苦難を乗り越えてきたこと

東京オリンピック前に起きたアキレス腱断裂から競技復帰までの道のりや、オリンピック最終選考会で5位に甘んじ補欠選手になったエピソードを披露した。そのうえで､「苦難の中でも努力を続けることが大切。その結果が良くても悪くても、全て人生の財産になる」と述べ、スポーツの良さは努力を振り返ることが出来るところにあるとの気づきを与えた。

②体操体験会

Ⅳ．体操競技の簡単なルール説明

ルールを説明することで、体操競技に美しさが必要なことを理解させる。そのうえで、平均台上での立姿勢やポージング、水平バランスの簡単な技を紹介、指導。

Ⅴ．簡単な技の採点、評価

平均台上での立姿勢や、ポージング、水平バランスを指導する際、採点や評価を行うことで子ども達に程よい緊張感を持たせ、より美しい動きを習得させる。

Ⅵ．デモンストレーション

取り組んだ技や、発展型の技の見本を講師が披露することで、子ども達に完成形のイメージを持たせ技の習得力を高める。

5.「ふれあい体操講演会」の成果

5.1　測定方法

中学生達の学習成果を検証する方法として、対面で実施した３年生のみを対象にアンケート調査を実施した[4)]。さらに、「ふれあい体操講演会」終了後に久保・寺本とＭ中学・Ｍ市の主な参加者とで交流会を開催し、成果の検証を行った。

5. 2　中学生達の学習成果

中学生達の学習成果については、表３に示した。

「本日はオリンピアンに会えて様々な話を聞き、実技指導を受けて、スポーツに対してどのような感想を持ちましたか」の質問では、「もっと深くスポーツを知り（学び）たい 48.4%（n＝78）」、「スポーツを知り（学び）たい 36.6%（n＝59）」、「どちらでもない 12.4%（n＝20）」、「あまりスポーツを知り（学び）たくない 1.2%（n＝2）」、「全く知り（学び）たくない 0.0%（n＝0）」となった。

続いて、「本日の講演を聞いて、オリンピック・パラリンピックへの興味や関心は高まりましたか」の問いに対しては、「とても高まった 37.9%（n＝61）」、「高まった 49.7%（n＝80）」、「どちらでもない 8.7%（n＝14）」、「あまり高まらなかった 2.5%（n＝4）」、「高まらなかった 1.2%（n＝2）」となった。

以上のことから、本イベントを実施することで、85.0%（n＝137）の子ども達がスポーツに対して知り（学び）たいという意欲が高まり、オリパラへの興味や関心を 87.6%（n＝141）の子ども達が感じたことが明らかになり、高い学習効果があったと考えられる。

またアンケートの自由記述には、「目標をもって、努力することを学びました」、「ありがとうの反対の言葉を考えるなんて今までしたことがなくて当たり前と聞いたときにすごく納得した」、「明日香さんの倒立（見本）がとても印象に残っています」、「今回の話を聞いて今勉強が大切な時期なので、しっかりと目標を立てて頑張っていきたいと思いました」と、講演や指導により意識の変化や、意欲の向上についての成果が多く述べられた。

表３　中学生達の学習成果

調査数（n ＝ 161）	n	%
本日はオリンピアンに会えて様々な話を聞き、実技指導を受けて、スポーツに対してどのような感想を持ちましたか		
もっと深くスポーツを知り(学び)たい	78	48.4
スポーツを知り(学び)たい	59	36.6
どちらでもない	20	12.4
あまりスポーツを知り(学び)たくない	2	1.2
全く知り(学び)たくない	0	0.0
欠損値	2	1.2
本日の講演を聞いて、オリンピック・パラリンピックへの興味や関心は高まりましたか		
とても高まった	61	37.9
高まった	80	49.7
どちらでもない	14	8.7
あまり高まらなかった	4	2.5
高まらなかった	2	1.2

5. 3 開催者側の成果検証

M中学校のA教頭、B教務主任、M市役所のC課長、D課員、寺本、久保で、開催者側から見た成果と反省を検証した。

①学校と行政が評価する全体的な成果

中学校側からは「限られた授業時間の中ではあったが、講演会と体操体験会の両方を取り入れたことで、子ども達に目標を持つことの大切さや、志を育てるといったことができた」、「本番で成功させるためのコツなど、競技は違うが部活指導で使える内容だった」との意見が述べられた。

また、行政側からは「従来のスポーツ教室だけでは得られないホストタウン事業としての教育的効果も見られた」との意見もあり、良い成果が確認された。

②寺本の指導に対する評価

交流会参加者からは、「未来を担う子ども達に、前向きな気持ちを与えてもらえるイベントになった」、「指導した3つの技を披露する際、構成を子ども達自身に決定させたことはとても良い教育方法だと感じた」など、寺本の指導に対する評価は高かった。

一方で、限られた時間の中でのイベントであったことから、「もっと伝えたい事や指導したいことがあったのではないか」との意見もあった。

反省点としては、「聴覚優位や視覚優位といった子ども達の特徴を捉え、指導に接することができればより良い学習効果を得られるのではないか」、「寺本さんの現役時代の映像を見せて体操のイメージを高めても良かったのではないか」との意見が述べられた。

以上のことから、学校と行政にとってだけではなく、寺本にとっても貴重な学習の機会となったことが確認された。

6. 結果の考察

①次世代の子ども達に感動を与えられるようなイベント

「夢や目標、努力し続けることの大切さが大事なのはみんな知っている。しかし、それをやってきた大人が身近にどれだけいるのかと言えば少ない。そんな中、寺本さんの言葉の一つ一つが子ども達に影響を与えたと思う」との振り返りを交流会で聞き取れたことや、子ども達の感想（アンケートの自由記述）から「今まであまり体操を見たり、したことがなかったけど、今日の実技指導を見てとても面白そうだし、楽しそうだなと思いました」、「オリンピック選手という、テレビの世界でしか見たことのない人がいて、本当にオリンピック選手って存在するんだと思った」、「普段聞くことができないような貴重な体験ができて良かったです」と述べられたことから①の目的は達成できたと考えられる。

②聞くだけの講演ではなく、子ども達と体を動かしながらの交流

交流会で指導教員より「（講演会後にファシリテーターが）せっかくなので、平均台しようかと言った時に子供たちがガッツポーズをした」という言葉や、授業の感想（アンケートの自由記述）では「実技指導では、どんなことで減点になるのかと教えてもらったので体操競技を見る時にそこに注目してみたいです」、「平均台は意外と細いと知り難しい競技だなと思いました」と述べられたことから、体を動かしながら体操競技に触れ楽しむことができたと言える。

③スポーツに対する学習意欲の向上

授業の感想（アンケートの自由記述）では「私はもう部活動などもなく、スポーツをする機会が少ないとは思いますが、これから受験等で周りに助けを求めたりすると思うので、今日教えてもらったことを参考にして、これからの生き方を変えていけるようにしたいです」、「私は普段自分からこれをしたいなどの欲があまりなかったけど、今回のお話を聞いて、とにかく何でもやってみるということを学びました」など、自身の考え方の変化を述べる子ども達が多く見られた。このように指導によって変化を体験することで学習意欲が向上したと捉えることができた。

④東京2020オリンピック・パラリンピックの終了後も継続したオリパラへの関心の向上

5. 2で示したアンケート結果（表3）からも中学生達のオリパラへの関心の向上が高かったことや、

アンケートの自由記述において「世界で活躍されている方が目の前にいてすごく、新鮮な体験でした」、「オリンピックに出場したようなすごい人の、人生での経験や色々な考えを聞くことができてよかったと思う」など、オリンピアンと交流することで、オリンピックに対する関心の向上が見えた。

⑤中学校教員への技術提供

「立ち姿や姿勢など見た目の大切さに対する指導は、授業だけではなくて、入試の面接など基本的な部分に大変役立つと感じた」、「今回の寺本さんの指導を通じて、日常での立ち振る舞いや美しさの必要性を改めて感じた」、「ゲーム性を持たせた平均台の指導の背景にはこれまでの経験や知識が凝縮されていた」と交流会で報告を受けたことから、目的である中学校教員への指導技術の提供は達成できたと考えられる。

7. まとめ

「オリンピアン　寺本明日香　ふれあい体操講演会」を開催するにあたり、M市から期待された5つの課題は、概ね達成できた。また、受講生徒や中学校教員は、それぞれ観点は違うものの、オリンピアンが現場指導することで、新鮮な体験を共有できたと考えられる。

M市役所の担当課長は「これまでに開催した2回のスポーツ教室（実技のみ）も非常に良かったが、今回は講演会、体操体験会のハイブリット型にすることで受け入れてくれた中学校の意向も汲むことができた。また、ホストタウン事業は競技だけではなく、文化の形成や生活などについても考える場になってほしいとの意味合いもあることから、非常に我々の思いが合致したイベントになった」と総評した。

講師の寺本は、オリンピアンで競技力が保証されていることはもちろん、大学の体操競技部を指導し、講演会にも多く登壇していることから、今回のふれあい体操講演会には適任の人材だった。

なお、本研究のもともとの目的であるスポーツ文化による地域振興とトップアスリートのセカンドキャリアの推進について、まずスポーツ文化による地域振興については、前節の①と④で示したような内容で貢献することができた。また、トップアスリートのセカンドキャリアの推進については、前節の⑤に書いたようなかたちで実現できた。さらに、子ども達の運動習慣の形成についても、前節の②と③で示したように一定の成果は達成できたが、運動が習慣として定着するために継続的な活動と追跡調査を実施していきたい。

また今回のふれあい体操講演会が、文部科学省（2010）の（1）ライフステージに応じたスポーツ機会の創造、（3）スポーツ界の連携・協働による「好循環」の創出、（5）社会全体でスポーツを支える基盤の整備に関してどのように貢献したかも記しておきたい。

（1）においては、コロナ禍により一部オンラインではあったものの、全校生徒を対象にしたことや、講演会、体操体験会では講師から前向きな声かけや、積極的なコミュニケーションが取られたことで、スポーツ機会の創造につながったと考えられる。

次に（3）では、ふれあい体操講演会の企画、開催にあたり、行政、学校、オリンピアン、大学教員が連携を図り協働することで、東京2020オリンピック・パラリンピックのレガシーの創出やスポーツ推進につなげることができた。具体的には、アンケート結果で示しているように、生のオリンピアンと触れあうことで、子ども達は学習意欲の向上やオリパラへの興味、関心が高まり、学校教員は今後の指導技術の提供を受けた。そして、これらを論理的に分析する専門家（大学教員）が参画することで研究資料として本件をまとめることができた。

（5）に関しては、コロナ禍のため断続的にはなったものの、2019年2月の体操教室、2022年3月の陸上教室、今回の講演会と実技指導を組み合わせた「ふれあい体操講演会」とオリンピアンが関わる3つの異なるスポーツイベントを同一の地方自治体で実施することで、同地にこの種の実践に関する「経験知」を蓄積できた。それにより、社会全体でスポーツを支える基盤の整備に貢献できたと捉えている。

東京2020オリンピック・パラリンピック大会が終了し、コロナ禍によって止まっていたスポーツ関連イベントも動き始めたことから、本研究報告が大会後のレガシーの一つとなり、地方自治体におけるスポーツ推進や活性化の一助になることを期待したい。

文献

文部科学省（2010）「スポーツ立国戦略　基本的な考え方」（2022 年 5 月 30 日閲覧）
https://www.mext.go.jp/a_menu/sports/rikkoku/detail/1297207.htm

奥谷雅史・岸田珞・長谷川芳彦・石川元美・田辺正友・若吉浩二（2004）「児童のスポーツ教室参加に伴う体力および運動習慣の変化」『奈良教育大学紀要 自然科学』53(2)，1-9.

田原陽介・常浦光希・佐藤真太郎・山本孔一（2016）「スポーツ教室におけるトップアスリートの教師行動に関する研究―トップアスリートを経営資源として捉えて―」『環太平洋大学研究紀要』10，195-200.

久保賢志・沖口誠・西山哲郎（2021）「地域のスポーツ文化に資するオリンピアンによるスポーツ教室に関する報告」『関西大学人間健康学研究』 Vol.14，55-62.

スポーツ庁（2022）「2016 年度から 2021 年度を通したオリンピック・パラリンピック・ムーブメント全国展開事業 2016-2021 年度総括報告書」（2022 年 9 月 1 日閲覧）
https://www.mext.go.jp/sports/content/20220331-spt_oripara-300000904_02.pdf

注

1）M 市は、東海地方の太平洋岸に位置する、面積 110 平方キロ強、人口 4.4 万人ほどの地方都市である。

2）2020 年 3 月には、同市において陸上競技のオリピアンである竹澤健介氏と協力して、本報告と同様の趣旨でスポーツ教室を開催した。その報告も、本誌本号において研究ノートとして掲載いただいた。

3）開催当日は、M 市役所の教育長ほか職員数名が来場され、現場確認や視察が行われた。この結果は、同市の HP に公開されている。

4）アンケートの調査項目のうち、本文中で参照しなかったものを以下に示す。

1. 本日の講演から、どのようなことを学びましたか。

本研究の一部は、2020 年度の関西大学学術研究員研究費と、2022 年度の至学館大学科学研究費補助金に関わる助成費によって行った。

A Report on a Lecture and a Physical Lesson held by an Olympian as a Contribution to Local Sports Culture

KUBO Kenji[1)], TERAMOTO Asuka[2)] and NISHIYAMA Tetsuo[3)]

1) Assistant professor, Faculty of Wellness, Shigakkan University
2) Researcher, Health Science Institute, Shigakkan University
3) Professor, Faculty of Health and Well-being, Kansai University

Abstract

This paper reports the lecture and the physical lesson by an Olympian for the students at a junior high school. The event was designed to promote sports culture which have a positive effect on regional development, to build up the legacies of the Olympic Games, and to support the second career of a top athlete. We had a similar event in the same town in 2019. This event was a complement to it, following the Tokyo 2020 Olympic and Paralympic Games.

The lecture and the physical lesson aimed to help students communicate with an Olympic athlete, to encourage their interest in the Olympics and sports culture, and to form the habit of daily exercise. Simultaneously, those were prepared to improve the instruction technique and methodology of the school's teachers.

The children were impressed by interacting with an Olympic athlete's talk and exercise, and were encouraged to improve their knowledge about sports. In addition, it succeeded in fostering a legacy of the Tokyo 2020 Games in their city, and improving the instruction technique of the teachers.

After the excitement of the Tokyo Olympics has passed, it is necessary for us to consider the legacy of the meeting. We expect that this report will be helpful for promoting sports culture within a municipality.

Keywords: community-based collaboration, sports lesson, Olympics, top athlete